

第23回 MQI活動

平成30年度
MQI統一主題

目的思考 ～業務の目的を理解する～



発行(公財)練馬総合病院MQI推進委員会
〒176-8530 練馬区旭丘1-24-1
Tel.03-5988-2200(代)

平成30年度 MQI活動 キックオフ 推進委員長 柳川 達生

第22回医療の質向上活動(MQI)は平成29年12月2日に45名の外部の方を含め186名が参加し盛大に開催しました。今回はMQI6チームと改善プロジェクト2チーム計8題の発表で活発な質疑が行われました。進捗がおもわしくないチームもありましたが、最終的には驚異的な追い込みでゴールしました。さて安堵もつかの間、23年目の活動が始まります。今年度の統一主題は「目的思考—業務の目的を理解する—」です。MQIの遂行は大変ですが、業務改善、職員の業務遂行能力、管理能力の向上、部署間の調整の推進という目的があります。重要な目的があるからこそ困難を乗り越えて活動を推進していく必要があります。チーム員のみならず職員の皆様の積極的関与を期待します。本年度はさらにステップアップさせ病院を発展させていきましょう。

平成30年度 MQI推進委員会メンバー紹介

委員長：柳川 達生（副院長・内科医師）

副委員長：金内 幸子（薬剤科）

事務局：小林 裕子（質保証室），北村 智弥（庶務課）

委員：小谷野 圭子（質保証室），橋本 健太郎（リハビリテーション科），
田村 美紀（5階病棟），近藤 拓也（医事課），高橋 敦子（2階病棟），
喜多 哲史（内視鏡センター），松尾 道暁（放射線科），
小林 陽子*（臨床検査科），堀 裕士*（質保証室）

*:新メンバーです！
よろしくお願いします。

今年度のMQI活動

4/12	4/20	5/12	7月前半	8月後半	10月	11月	12/1
キックオフ	エントリー×切	1日で計画を立てる会	チーム別相談会①	チーム別相談会②	予演会	発表スライド×切 報文集作成	発表大会 継続フォローの会

23年目となるMQI活動がスタートします。

エントリーシートの提出×切は4/20（金）12:00です。

職員はより仕事しやすく、患者さんにはより質の高い医療を提供できるよう、多数のチームの参加をお待ちしています。

今年は、発表大会に報文集（活動完了報告）を配布する予定です。例年とはスケジュールが大幅に変更になっていますので、計画的に活動を進めましょう！

平成29年度 MQI 継続フォローの会 2018/3/5, 12

テーマ・チーム名/ 主体部署・参加者 (◎リーダー、※推進委員)	現在の状況 及び 今後の活動
<p>退院支援の流れを整備し、院内外の多職種間で必要な情報を共有する (シームレス)</p> <p style="text-align: center;">地域連携室・薬剤科 ◎佐藤 弘 ※金内 幸子</p>	<p>今回の活動により退院支援時の院内連携が強化され、退院時カンファレンスでは薬剤師と療法士が院外医療従事者に向け直接情報提供するようになった。現在も成果を継続し、更に発展させている。看護部業務委員会への登録ができていないため、早急に取り組む。</p> 
<p>検査について患者に分かりやすく伝える (くりとら)</p> <p style="text-align: center;">臨床検査科 ◎西浦 彩 ※中尾 和城</p>	<p>検査の情報提供資料は季節に合わせた資料に差し替えを行っている。今後も検査科広報委員が中心となり、院内広報誌の記事を有効活用し、適時追加する。検査予約票や予約センターマニュアルについては現在概ね良好に使用されている。今後、不具合等があった場合は修正していく。</p> 
<p>①外来会計における患者さんの待ち時間短縮の検証 ②品質表による医事課業務の検討 (はやぶさ)</p> <p style="text-align: center;">医事課 ◎高梨 徹雄 ※近藤 拓也</p>	<p>この活動を通じ、あらためて職員育成が重要であり大変であることを痛感した。今後も外来業務(受付、ブロック、計算)のすべてをこなせる者を育成しなければならない。また日々、人(患者やその家族)を相手に仕事をしているので、人に対する態度(言葉遣いやものの言い方)も同時に教育していく。</p> 
<p>入院患者の内視鏡検査及び検査後管理を行うための情報伝達・検査準備に関する体制の見直し (アップル)</p> <p style="text-align: center;">内視鏡センター ◎中川 舞 ※喜多 哲史 柳川 達生</p>	<p>チェックリストの改善は適宜行っているがパスやマニュアルへの反映が遅れており現在の最優先課題となっている。また抗凝固薬の扱いに関してもまだ検討中であり、早期に解決できるように取り組んでいく。</p> 
<p>入院業務継続のための災害時初動対応の体制を構築する (With T)</p> <p style="text-align: center;">看護部 ◎喜多川 るみ子 ※田村 美紀 高橋 敦子 小林 裕子</p>	<p>今回の活動で、①病棟以外にいる入院患者の安否確認 ②各部署への応援体制 ③災害時の非常食提供の3つに取り組んだ。①②はBCP担当に引き継ぎ、今回決定した流れをマニュアルへ組み込んでもらう予定である。③は、看護部・栄養科メンバーでH30.3.26に非常食提供に関する説明会を実施した。</p> 
<p>目標設定等支援・管理料の運用方法を見直す (カイリュウ)</p> <p style="text-align: center;">リハビリテーション科 ◎大橋 代 ※橋本 健太郎</p>	<p>今回の活動で医師や医事課等の他部署と協力し目標設定等支援・管理料の算定件数を増やすことが出来た。現況でもこれを継続し、業務として落とし込むことが出来ている。しかし自署可能患者を対象にしており、取りこぼしもあるため、引き続き周知徹底と運用方法の見直しを行っていく。</p> 